

議会報告会 報告書

地 域 名		南谷地区					
年 月 日		平成 25 年 5 月 21 日	会 場 名	糸原公民館			
開始時間		19 時 30 分		終了時間	21 時 05 分		
参 加 数		男	17 人	女	13 人	合 計	30 人
班 長		深澤 巧		司 会 者	深澤 巧		
報 告 者		藤原 哲郎		書 記	藤原 敏憲		
班 員 名		深澤 巧、 北尾行雄、 藤原哲郎、 藤原敏憲					
市 民				対 応			
報告に 対する 質疑	無						
意見交換会での 質疑	①【学校でのスキー教育について】 市内にはスキー場があるが、学校でのスキー教室がなくなっている。これでは、スキーに親しむ子どもたちができない。都会に出ても、知人を連れてスキーに帰ってくるといこともなくなる。学校教育でスキーを取り入れて欲しい。			①以前には、それぞれの学校でスキー教室を行っていたが、現在はそのような機会が減ってきている。指摘のことは教育委員会に伝える。			
	②【市内観光の PR について】 北近畿自動車道のインターができたが、道路標識の裏に氷ノ山までの距離を入れるなどの宣伝を兼ねた工夫をすべきでないか。			②当局に申しておく。			
	③【氷ノ山国際スキー場について】 経営状況はどうなっているのか。経営が厳しい施設は廃止も考えるべきではないか。温泉施設も合併前にバタバタと作られている。議員は何をしていたのか。			③赤字の年が多い。市の直営から、指定管理とし、業者の選定を行っている。反面、地域活性化の役割もある。 冬期間の雇用確保や廃止すれば鉢高原全体に悪影響が出る。 合併時、赤字のスキー場はつぶしたらよいという意見もあった。それぞれ事業をはじめた時は意義があった。一足とびに整理する事ができない。合併前に作られた施設が多く、そのまま養父市が引き継いでいる。そのために市の対応も施設によって違っており、今後の課題である。			

④【やぶ医者プロジェクトについて】

④八鹿病院の外来患者も大幅に減っている。
医師確保の為に八鹿病院の奨学金制度を拡大している。養父市独自の取組である。奨学生が八鹿病院へ赴任してきて効果が出ている。女性医師への子育て援助などに予算を付けている。今年研修医が5人来ている。整形外科の先生も意欲的な方が来られている。今後の医師の確保に役立つものである。

⑤【廃校利用の現状について】

⑤廃校利用は市として積極的に進めており、民間会社が5校の廃校を活用している。
廃校利用について養父市は全国的にも有名で視察によく来られる。大谷、西谷、青溪、浅野に企業が入っている。昨年口大屋に企業が入って売電事業、農産物加工事業を始めようとしている。農産物加工の事業については白紙になってしまった、という報告を受けている。他に具体的な所まで行っていないが市への廃校利用の打診は何点かあると聞いている。

⑥【ごみ収集について】

不燃物、大型ごみ収集など、養父市と朝来市のごみ収集の回数などが違うのか。

⑥以前から見れば、大型ごみなどの特定のごみの収集日は減っているが、両市とも回数是一緒だと思う。

	⑦【議員活動と将来の市財政について】 選挙に出るときは、市民とのパイプ役、市民の代弁者などの公約を掲げるが、当選した後の議会の議論を見ていると、公約を守っているのかと思う。 問題があるのに、当局のいいなりとなっている。最初は反対しながら、賛成する議員もいる。 財政が良くなったと聞くが、税収で人件費をまかなえない、起債は 480 億円もある。毎年多額の借金返しをしなければならない状況ではないか。 厳しい財政状況の中で頑張ってもらっているが、5 年後の養父市のビジョンなどを示して欲しい。今後の市政運営は厳しくなると予測されるが、議員しか市長の考えを修正することはできない。頑張ってもらいたい。	⑦議員はそれぞれの立場で市民の暮らしを守るために頑張っている。しかし、指摘のような思いをもたれていることについては議員として反省もして行かねばならない。 合併時は起債総額は 600 億円以上あったが、減らしてきている。過疎化・高齢化・少子化など、厳しい右肩下がりの状況の中では 10 年後、20 年後を見通すのは難しい。市民それぞれが助け合う精神が必要ではないか。
その他（提言など）	無	
備考（今後の改善点等） 無		

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

平成 25 年 5 月 27 日

報告者 3 班 班長 深 澤 巧 